

## 第4回文化マスタープラン市民検討会議 議事録

平成29年10月31日(火) 午後6時～8時

於：長久手市文化の家

### 1. 運営委員会への報告

「改訂方法について」

- ・ 文化の家の運営 → 市の文化芸術政策へ
- ・ 鑑賞・創造 → 体験・鑑賞・創造・活用へ

「計画の内容」

- ・ 文化マスタープランは、中庸でフレキシビリティをもって書き上げるのがよい。
- ・ 作成に関しては、市民の協力の下に、行政が共同で作成する。
- ・ 素案の段階で他部課との総合会議をもち、調整しながら進めていく。

### 2. 重点施策に関する意見交換

過去の文カフェで出た意見をもとに、意見交換。

【施策】

- ・ 親しみのある分野はどのような分野なのか。
- ・ どんな公演を増やすのか、明示されるとわかりやすい。
- ・ 第2次まではなかった施策は何か。具体的に示されているとよい。
- ・ 学校で生の芸術に触れる機会が増えるとよい。
- ・ 芸術のアイデンティティの確立 ← どうやって全国・世界に向けて発信していくのか。
- ・ 対象者は誰なのか等、イベントの内容を明確にする。
- ・ 独居老人が増えて、とじこもりがちになっている。いきなりコミュニティに参加するのは難しい。 → 文化の家を軸に、何かできないか。
- ・ 文化の家が現在行っている事業を、社会包摂などの視点からもう一度捉え直したら、新たなプロジェクトが生まれるのではないか。
- ・ 美術系や食文化など、今は少ないワークショップなどが出てくるとよい。
- ・ 市のなかでも地域差があり、まちづくりができていところもある。

### 【行政】

- これまでは縦割りの行政目線。内容がばらばらで面白みのない企画が多くなってしま  
う。 → テーマ別に、市民・市役所の担当の課が予算化すべき。
- (テーマ別に) 市民と行政をつなぐためのコーディネーターが必要。やりたいことが  
現実化できるコーディネーターが増えていくことが重要。
- 長久手市がアーティストを支援する。

### 【市民参画】

- トップダウンではなかなか自立しない。市民の既成団体を利用して、市民参画につな  
げていくとよいのではないか。
- 自力ではアイデアの提出が精一杯の市民に対し、プロモーターの育成がなされるとい  
い。
- 30、40代がたくさんいるが、ほとんど市に関与していない。市民の絆作りをして、コ  
ミュニティを形成する必要がある。
- 住民の能力を過大評価しすぎてはいけない。
- 市民との関わり方は、どこのまちでも同じように求められている。
- 市民を育成していかなければならない。ある程度組織として作っていくことが必要。  
市民との関わり方を段階的にする。
- わずかでも報酬が伴っていないと、市民と共同で何かするのは難しい。
- やる気のある人が集まったらできるというわけではない。形が継続できるように、行  
政の関与が必要。
- ご近所付き合いが希薄化している中で、人材の確保・育成をどうしていくか考えなけ  
ればいけない。
- 市民がお客様になってはいけない。

### 3. 今後の流れ

- 12月12日、運営委員会で中間素案を提出
- 2月頃、パブリックコメントの募集  
→ 市民検討会議を召集
- マスタープランの完成は3月末の予定